



■ 日本分析化学会第74年会 (札幌) 報告

日本分析化学会第74年会 実行委員長

渡慶次 学 (北海道大学)

北海道支部会員の皆様のご協力のおかげで、日本分析化学会第74年会を無事に終えることができ、ほっとしております。ご支援に心から感謝申し上げます。北海道大学での開催ということもあり、準備段階から北海道大学の谷先生(総務)、佐藤先生(会場:工学部)、上野先生(会計)、山田先生(プログラム)、石田先生(会場:体育館)には多大なご尽力をいただきました。また、Asianalysis XVII との合同開催でもあったため、真栄城先生と龍崎先生にはAsianalysis の会場担当として多くの業務をお引き受けいただきました。



学会会場入口 (工学部正面入口)

学会前日には、本年会実行委員の多くの先生方にご協力いただき、会場設営やプログラム集等の袋詰め作業を行っていただきました。年会初日から最終日までプログラムが滞りなく進

行したのは、ひとえに会場係の先生方のご尽力のおかげです。また、受付担当の木村先生、授賞式担当の天津先生、懇親会担当の南先生にはそれぞれご担当の業務を円滑に進めていただきました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

講演件数や参加人数、講演・シンポジウムの内容、授賞式や懇親会の様子など、年会の詳細な報告については、「ぶんせき」誌に掲載される予定ですので、ここでは割愛いたします。

会場費などの高騰により収支を心配しておりましたが、多くの方にご参加いただいたおかげで、昨年同程度の年会となりました。これにより、本部からの北海道支部への配分も大きく減ることはないものと考えております。何とか責任を果たすことができたのも、ひとえに皆様のお力添えによるものです。また、面倒な会計報告は、上野先生と谷先生にご作成いただき、監査については田中先生、伊藤先生、蠣崎先生に内容をご確認いただきました。幹事の皆様には、年度末の幹事会で詳細をご報告させていただきます。

最後になりますが、本年会の成功は、北海道支部会員の皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。ここに改めて厚く御礼申し上げますとともに、文中でお名前を挙げるができなかった先生方にも、この場を借りて深く感謝申し上げます。今後とも支部活動への変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

(とけし・まなぶ)

■北海道分析化学各賞の受賞者決まる!

支部表彰規定に基づく選考の結果、2025年度北海道分析化学各賞は下記の通り受賞者が決定しました。受賞者の皆様におかれましては心よりお慶び申し上げますとともに、益々のご活躍をご祈念申し上げます。

北海道分析化学賞

高瀬 舞 君(室蘭工業大学)

北海道分析化学功労賞

青柳 直樹 君(北海道立衛生研究所食品科学部)

宇都 正幸 君(北見工業大学地球環境工学科)

吉村 昭毅 君(北海道医療大学薬学部)



授賞式&受賞講演会のお知らせ



期日 2026年 2月 27日(金) 16:00~16:40

会場 北海道大学工学部アカデミックラウンジ 3(B棟 2F)

(札幌市北区北13条西8丁目)

授賞式(16:10~16:20)

北海道分析化学賞	(室蘭工業大学) 高瀬 舞 君
北海道分析化学功労賞	(北海道立衛生研究所食品科学部) 青柳 直樹 君
北海道分析化学功労賞	(北見工業大学地球環境工学科) 宇都 正幸 君
北海道分析化学功労賞	(北海道医療大学薬学部) 吉村 昭毅 君

受賞講演(16:20~16:50)

「表面反応における形状依存性の解析と光機能材料の開発」

高瀬 舞 君(室蘭工業大学)



※ 「授賞式・受賞記念講演会」

事前申し込み不要(参加無料)

※ お問い合わせ先 北海道支部事務局 田中真理

(jsac-hb@w9.dion.ne.jp)



これからの行事予定

化学系学協会北海道支部 2026 年冬季研究発表会

日本分析化学会・日本化学会・電気化学会・触媒学会・表面技術協会・石油学会各北海道支部共催の化学系学協会北海道支部 2026 年冬季研究発表会が下記の通り開催されます。今回は北川進教授のノーベル化学賞受賞を記念して MOF に関する特別講演も行われます。多くの支部会員のご参加をお願い申し上げます。

会期：2026 年 1 月 20 日(火)・21 日(水)

会場：北海道大学学術交流会館(札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

特別講演：円偏光を手掛かりとした分子構造の評価 vs. 分子構造を制御した円偏光の発生
(東京都立大学)杉浦健一先生
多孔性配位高分子(MOF)の構造柔軟性:その理解と機能設計 への展開(仮題)
(京都大学高等研究院)大竹研一先生

参加登録費：早期登録(2026 年 1 月 9 日(金)までにウェブ登録・振込分)：一般(共催学協会会員) 3,000 円/一般(非会員) 6,000 円/学生(発表) 1,000 円/学生(聴講のみ) 無料

懇親会：2026 年 1 月 20 日(火)18:30 場末の和顔(札幌市北区北 7 条西 7 丁目 6-17)
早期登録(2026 年 1 月 9 日(金)までにウェブ登録・振込分)：一般 6,000 円/学生 5,000 円
人数制限[30 名]を設ける場合があります、その場合には先着順となります。また、懇親会の申し込みは 2026 年 1 月 16 日(金)までですのでご注意ください。

今後のスケジュール:

講演申し込み：〆切済み(2025 年 11 月 21 日(金))

口頭発表 62 件・ポスター発表 58 件

要旨原稿受付：2025 年 12 月 16 日(火)～2026 年 1 月 9 日(金)

参加/懇親会早期登録：2025 年 12 月 16 日(火)～2026 年 1 月 9 日(金)

プログラム公開：2025 年 12 月 16 日(火)

要旨公開：2026 年 1 月 16 日(金)

その他、通常登録や振込、発表形式などの詳細はウェブシステムをご覧ください。

連絡先：実行委員会委員長 山田 幸司(北海道大学)

電子メール：toukiken@touche-np.org

ウェブシステム：<https://touche-np.org/toukiken>

(北海道大学大学院地球環境科学研究院・山田幸司)



これまでの終了行事報告

2025 年 夏季研究発表会（詳報）

日本化学会北海道支部主催、日本分析化学会北海道支部ほか 6 学協会支部の共催で、日本化学会北海道支部 2025 年夏季研究発表会が、7 月 19 日（土）に苫小牧工業高等専門学校において開催されました。



今回の夏季研究発表会には、114 名（一般会員 39 名、一般非会員 8 名、学生会員 29 名、非会員学生 38 名）の参加がありました。一般講演としては 53 件の口頭発表があり、4 つの会場で討論が活発に行われました。なお、分野別の発表件数は無機化学 9 件、分析化学 4 件、有機化学 9 件、物理化学 6 件、高分子 14 件、触媒 7 件、生化学 2 件、その他 2 件でした。

特別講演としては、苫小牧工業高等専門学校創造工学科岩波俊介先生により「極限の地で挑む化学：第 65 次南極地域観測隊の記録」と題してお話いただきました。

また、日本化学会会長・京都大学大学院薬学系研究科丸岡啓二先生には「有機触媒化学の最前線」と題してご講演いただきました。これからの化学者をいかに育てていくか、というお話もあり、活発な質疑が行われていました。



研究発表会終了後には、市内苫小牧駅近くのホテルに移動し、懇親会が行われました。25 名の参加者はゆったりとした会場で飲食を楽しみながら親睦を深めることができました。

次年度は函館（実行委員長：宇月原貴光先生）にて開催される予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（苫小牧工業高等専門学校・奥田弥生）

2025 年 公開セミナー

2025 年 12 月 23 日火曜日の 10:30 から北海道大学札幌キャンパス（工学部）材料化学棟 MC030 教室において、「柔らかく多種多様な信号計測が可能なマルチモーダルセンサシート」というテーマで公開セミナーを開催しました。

今年度の公開セミナーは北海道大学で実施されました。講師として竹井 邦晴 先生(北海道大学 学院情報科学研究所 教授)をお迎えし、ウェアラブルセンサーに関する最新の研究成果についてご講演いただきました。講演には北海道大学工学部応用理工学系応用化学コースの3年生を中心に25名の学生および聴講者が参加し、竹井先生の無機材料・化学センサー・機械学習を組み合わせた柔軟かく、多種の生体情報を計測可能なウェアラブルセンサーの講演を熱心に聴講していました。特に応用化学コースの学生にとっては、無機材料から生体情報、機械学習など、分野横断的な研究の話題を聞く貴重な機会となり、普段学習している無機化学、分析化学、生化学などがどのように利用されているのかを俯瞰できる有意義な講演となりました。学生からは、「化学寄りではない分野だったが、分かりやすい説明でとても興味深かったです。」、「デジタルヘルス領域の研究をしたいと考えているため、とても興味深かったです。」、「医療などの



発展にとっても貢献しそうだと思います。」など、様々な感想が寄せられました。また、主な聴講者が研究室に配属される前の3年生であったことから、研究に対する竹井先生のアプローチや考え方などについてもご紹介いただき、今後の研究活動の参考になったと思います。

本公開セミナーは、参加した本校学生にとって最先端の研究成果を垣間見る大変貴重な機会となりました。本事業の実施に当たり、ご支援いただきました坂入支部長始め関係各位に心から感謝申し上げます。

(北海道大学大学院工学研究院・真栄城正寿)

2025年 北海道地区化学教育研究協議会

第67回北海道地区化学教育研究協議会が2025年11月15日、日本化学会北海道支部、日本分析化学会北海道支部、日本化学会教育・普及部門の主催で対面とオンラインのハイブリッド方式により開催され、小中高大学の教員、大学院生ら計49名が参加しました。

対面の会場となった北海道教育大学札幌駅前サテライトでは、同協議会会長の伊藤崇由先生(北海道札幌啓成高等学校)の開会挨拶により午前の部がスタートしました。最初のプログラムとして、猿渡英之先生(宮城教育大学)により「教員養成の現場から見る小中高化学分野の系統性と求められる資質」と題する特別講演が行われました。学習指導要領の重要な要点の一つである「学習内容の系統性の重視」について、その実現の難しさと工夫例をご紹介いただきました。また、教員養成の現場において化学を志向する学生が減少して

いることやその対応についてご説明いただきました。その後、日本分析化学会北海道支部長の坂入正敏先生(北海道大学大学院工学研究院)による挨拶で午前の部が終了しました。

午後からは、小学校から大学の教員による提言として各校での実践内容の報告が行われました。磯川祐人先生(札幌市立緑丘小学校)から「一人一人が他者の気付きや解釈の違いを基に問題を見だし、繰り返し仮説を実証、更新することで科学的な認識を深める理科学習～学びの道筋を生み出す学習計画

書の活用～」、林亮輔先生(北海道教育大学附属旭川中学校)から「自立して探究する生徒の育成～科学的根拠に基づいたアーギュメントの効果に関わる研究～」、飯嶋めぐみ先生(北海道高等学校遠隔授業配信センター)から「遠隔授業におけるオンライン化学実験の取り組みについて～深い学びを日常的に実現する実験モデルの構築に向けて～」、宇都正幸先生(北見工業大学)から「変わるもの・変わらないもの-大学の化学初等教育-」と題する提言がありました。その後、高橋さおり先生(北海道札幌英藍高等学校)の司会による自由討論が行われ、特別講演と各提言、特に今後の理科教育に関する内容に関してさらなる意見交換が行われました。自由討論のあとに、2件の事業報告「高校生が教える小学生の化学実験教室」および「日本分析化学

会第74年会高校生ポスター」が行われました。

最後に日本化学会北海道支部長の島田敏宏先生(北海道大学大学院工学研究院)の挨拶で閉会となりました。そのあと別会場で行われた懇親会の席でも活発に意見交換が行われました。

今回の同協議会は、学生の参加者が少なかつたものの例年と同程度の数の参加があり、活発な意見交換からは道内化学教育関係者の化学・理科教育への熱意の高さを実感することができました。一方、小中学校の先生の参加が極めて少なく、これは今後の課題と言えます。また、参加者に対してアンケートを実施することとなり、今後の運営の改善にいかしていくこととなっています。

(北海道大学大学院工学研究院・谷博文)

第61回 氷雪セミナー

日本分析化学会北海道支部主催の第61回氷雪セミナーを令和8年1月10日(土)～11日(日)に、網走郡大空町にある湯元ホテル山水にて、第61回氷雪セミナーを開催いたしました。

本セミナーでは、長年にわたり日本分析化学会北海道支部の活動にご尽力され、令和8年3月末をもって北見工業大学をご退職される宇都正幸先生と関わりのある先生方にご講演をお願いしました。まずは宇都先生ご自身より、「分析化学会北海道支部会員としての42年」という題目で、昔の思い出話から教育・研究への想いに至るまで、示唆に富んだお話を頂きました。続いて、宇都先生と学生時代からのお付き合いである北見工業大学の南尚嗣先生より、「摩周湖ベースラインモニタリングにおける湖水中微量元素の分析」についてご講演頂きました。さらに、宇都先生の釣り仲間である帯広畜産大学の得字圭彦先生からは、「お米のオミクス解析で探る、

アレルギーとの関係」という題目でお話を頂きました。得字先生にはご家庭のご都合によりご来場頂くことは叶いませんでしたが、ご多忙の中、オンラインにてご対応頂きました。最後に、宇都先生とご親交の深い東京薬科大学の袴田秀樹先生より、「電気化学分析、質量分析、蛍光分析を活用する脂質分析法の開発と応用」という題目でご講演を頂き、参加者からは化学的な内容にとどまらず、健康相談のような質問も多数寄せられました。



講演終了後は懇親会、そして二次会へと続き、

夜遅くまで親睦を深めるとともに、昔話にも花を咲かせておりました。

最後になりますが、本セミナーの開催にあたっては、分析化学会非会員である本学助教の平野満大先生に、幹事業務を多大にご支援

頂きました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

(北見工業大学・大津 直史)

支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が理事会で認められたほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。

【新入会のみなさん】 正会員3名、学生会員1名、ジュニア会員3名(入会順・敬称略)

正会員: 堺 絵実(北見工業大学工学部)

佐々木 裕佳子(北海道大学技術連携統括本部)

澤里 理美(北海道大学技術連携統括本部)

学生会員: 橋場 瑛史(北見工業大学大学院工学研究科)

ジュニア会員: 今井 優奈(北見藤高等学校),

上村 奈月(北見藤高等学校)

林 雪月花(北見藤高等学校)

八巻 星奈(北見藤高等学校)

【退会のみなさん】 正会員 1名

正会員: 竹内 久朋((株)セロテック江別研究所)

編集後記

支部ニュース第72号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご寄稿頂きました執筆者の皆様、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。来年度の支部ニュース編集は、大塚侑(北海道立衛生研究所、留任)と市村天(北

海道立衛生研究所、新任)との二人体制で行う予定です。今後とも支部ニュースへのご支援ならびにご協力をお願い申し上げます。

(編集委員:青柳直樹、大塚侑)

公益社団法人 日本分析化学会北海道支部事務局

札幌市北区北13条西8丁目1

北海道大学大学院工学研究院内 支部長 坂入正敏

TEL 011-706-7111

E-mail jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

北海道支部ニュース 第72号

編集・発行

公益社団法人

日本分析化学会北海道支部

発行日

2026年1月29日